

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「勉強する理由」

向日市立寺戸中学校 2年

上田新奈

私達学生は日々新しいことを学び、それらを頭にたたきこんでいる。そんな中で、自分は何のために勉強し、定期テスト前は夜遅くなくても眠さを堪えてまで勉強しているのだろう、と疑問を抱いたことはないだろうか。もし本当に将来の役に立たないことを、ただテストを切り抜けるためだけにしているのであれば、それはとても無駄なことで、やる気など起こるはずがない。しかし、本当に、今している勉強は今のためだけにしていることなのだろうか。私は、勉強が自分の将来にどう役立っているのか考えてみることにした。

私には夢がある。それは、自分が作ったものを食べてくれた人が笑顔になり、幸せな気持ちになる、そんな食べ物を作ることだ。私は、人がおいしい物を食べた時に笑顔になる瞬間が世界にあふれてほしいと思い、将来は自分が作った食べ物で、その瞬間を沢山作り出せるパティシエールになることを夢めている。パティシエールは一見勉強をしなくても、料理の腕を磨けばなれるような気がするかもしれないが実はそうではないのだ。では、今勉強している十教科はパティシエールになるという夢にどう関わってくるのだろうか。

まず国語はどうだろう。パティシエールはお客様と直接お話しする接客業でもある。そんな時に、正しい日本語を話せず、お客様に悪い印象を与えてしまわないようにするためには、国語は必要な教科だ。話すという点では英語も同じだ。今の日本には、外国の方も沢山来られる。お客様にかぎらず、社会に出た時に英語を話す機会が上手く話せなくては困ってしまう。次に理科と数学はどうだろう。皆さんは「料理は科学だ」という言葉を聞いたことはないだろうか。料理は深く考えると理数と結びつく点がいくつもある。例えばパンケーキがふくらむのは、生地を作る時に入れるベーキングパウダーに含まれている炭酸水素ナトリウムと、酒石酸が反応して発生した水蒸気や二酸化炭素などによって生地が持ち上げられるからだ。しかし、ベーキングパウダーを沢山入れすぎるとケーキが苦くなってしまうのだ。入れすぎないように生地とのバランスを保つ割合を考える時、数学の公式を覚えていると便利だ。次に社会はどうだろう。料理の材料には、それぞれにおいしく作りやすい環境がある。それに適した場所で作られている良い食材を見つけるには地理が役に立つ。

次に、実技教科はどうだろう。ものを作り上げるための基礎知識を学ぶためには、家庭科はもちろん、技術も大切だ。そして、新しいアイデアを考え新商品を作る時には、美術や音楽で身につけた芸術的感性が必要である。体力や筋力がつけられるという点では、実は体育も大切なのだ。なぜなら、何キロもあるなべを持ったり、生地をこねたりする時に体力や筋力がなければなべも持てず、生地も上手くこねられないからだ。

次に、十教科以外で部活動や、学校生活ではどんなことが学べるのだろうか。

一つ目は、先輩や先生方や後輩との上下関係や信頼関係の築き方、二つ目は、難しい問題を何度も解き直したり、出来ないことを何度も練習したりするなどの継続する力だ。これらの二つは社会に出て過ごしやすい環境を作るためには大切なことだ。

このように、今学んでいることが、自分の将来にどう役立っているか考えることで、学校に行っても学ぶことは決して無駄なことではないと思えるのではないだろうか。人は、自分の好きなことのためなら苦手なことも努力できる。勉強が自分の好きなことに必要なことだと分かれば自然と勉強に対する意欲も湧き、楽しいと思えてくるのではないだろうか。

今、もし学校に行っても勉強するなんてめんどうだし、嫌だと思っている人がいたら、学校で学ぶことがこの先自分の人生に、本当に必要ないことなのか、もう一度考えてみてほしい。そうすることで、今自分に必要なことは何なのか見えてくるのではないだろうか。